

りんご新たな販売へ!

小玉で中間層需要狙う

～アニメ風イラストダンボールで輸出開始～

当JAは、輸出用りんごで新しいデザインの出荷箱を取り入れた。日本のイメージが強く発信できるように、アニメ風のイラストなどを描いたダンボール箱を用意。これまでは1箱(10kg)32玉の大玉が中心で富裕層向けだったが、中間層も購入しやすい価格帯で提供できるように、1箱(15kg)50～56玉の小玉りんごを詰め、販路拡大を狙う。

平賀販売センターで作成し、贈答用りんごパッケージに採用しているキャラクター「凜ちゃん」のイラストを活用。さらに日本文化を想起させるものとして富士山と鳥居、桜、日本国旗の扇子の絵に加え、日本語の「すごい」をローマ字にした「SUGOI」の文字を入れた。

香港、タイ、シンガポールなどに輸出するサンふじと王林が対象。取引先の輸入業者から「日本はアニメ文化のイメージが強く、箱にイラストを入れれば、印象に残る」との提案を受けて取り入れた。これまでは発泡スチロール箱で輸出してきたが、ダンボール箱にして資材費の抑制にもつなげた。

これまで輸出は大玉が中心だったが、箱に最大量を詰めることでコストを削減し、販売価格を抑える。今後は大玉と小玉の両方を輸出する。

りんご課は「今までは、富裕層消費者向けの大玉だけだった。中間層も購入できる低価格の小玉りんごを販売して消費を広げ、農家の所得拡大につなげたい」と話した。



アニメ風の絵などが入ったダンボール箱

完熟りんご追求

～「ゆきのしたりんご」販売～

今年度から板柳地区で「ゆきのしたりんご」の販売を始めた。12月1日から選果作業を行い、国内約1400箱(1箱3～5kg)、輸出約1890箱(1箱3～5kg)の出荷を予定する。

「ゆきのしたりんご」は、板柳地区葉衣の会21人が栽培。付加価値をつけて高値販売を狙うため、通常の収穫時期より遅い11月中旬から下旬に収穫し、樹上完熟させたりんごを「ゆきのしたりんご」で販売する。樹上完熟を追求することで、より糖度が高く、蜜が入ったりんごが期待できる。

りんご課は「今後の有利販売につながれば」と期待する。



輸出は「ゆきのしたりんご」のチラシをいれて発送

